

COOP

京都の生協

●2004●NOVEMBER●NO. 54
発行●京都府生活協同組合連合会

Talk Talk トークとーく
豊かな福祉と平和はわたしたちの共通の願い
安心してらせる社会を、連携の力でー

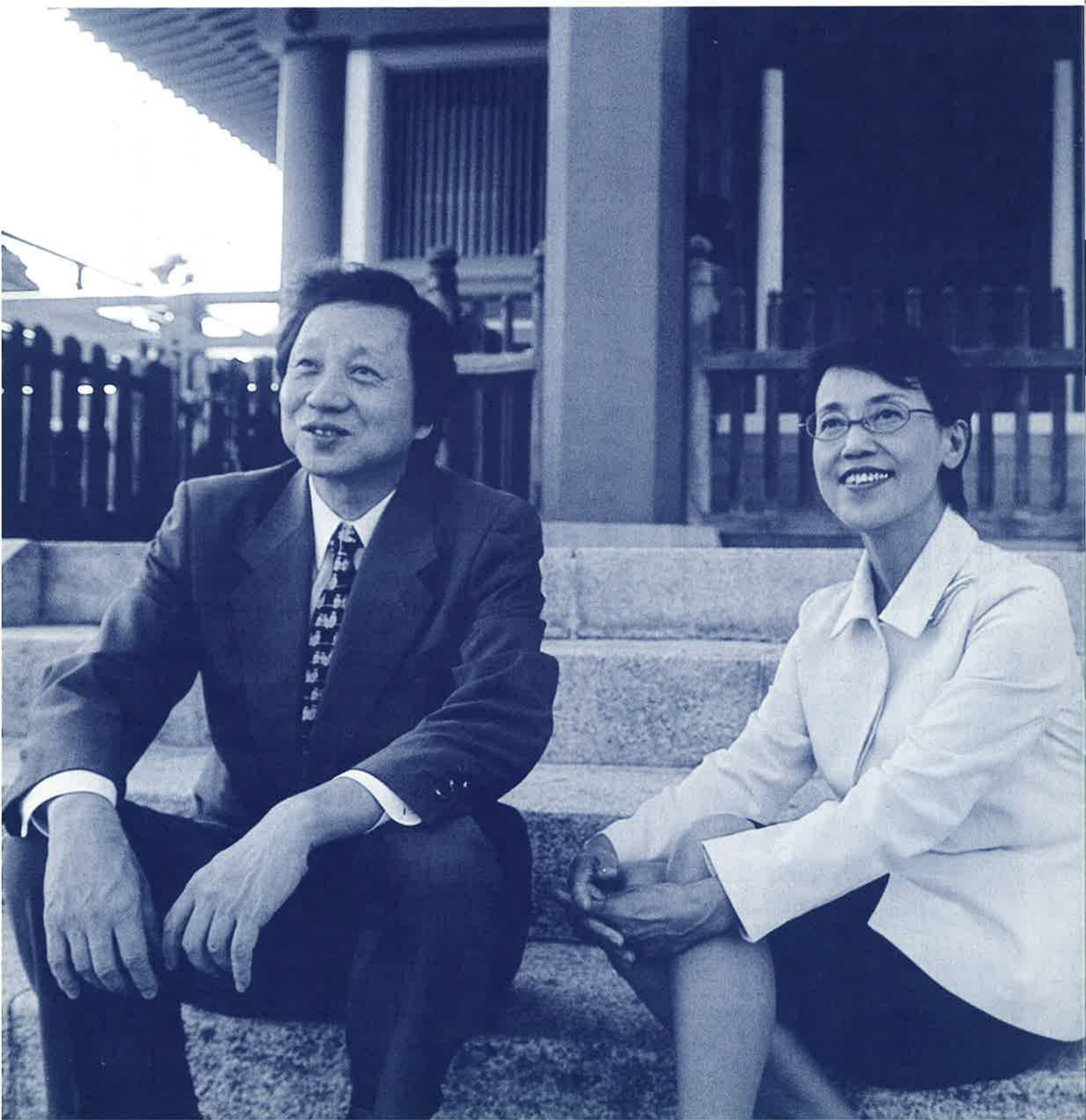
●京都労働者福祉協議会会長

き ど よしかず
木戸 美一さん

●京都府生活協同組合連合会会長理事
(京都生協理事長) こばやし とも こ

小林 智子さん

CONTENTSは2ページへ





TalkTalk

トークとーく

対談

豊かな福祉と平和はわたしたちの共通の願い
安心してくらせる社会を、連携の力で――

京都労働者福祉協議会会長

木戸 美一さん
きど よしかず

京都府生活協同組合連合会会長理事（京都生協理事長）

小林 智子さん
こばやし ともこ

だれもが「安心してくらしたい」と思っているのに、いまだ世界に戦火はたえず、国内には失業・介護・年金・食…と、不安の種がつきない。企業犯罪や若者・高齢者をねらった犯罪も多発している。安心してくらせる社会を実現す

るには、さまざまな組織や個人が連携し、共同していくことがもとめられる。「平和で豊かなくらし」について、京都労働者福祉協議会（以下、労福協）の木戸美一会長にお話をうかがった。

わたしたちの共通の目標は「人びとの経済的・社会的・文化的なニーズと願いを満たすこと」

小林 先日は京都労働協主催の「勤労者健康スポーツフェスティバル」と私も京都府生協連主催の「京都・丹波『井・どん』元気が出るテント村フェスティバル」を丹波自然運動公園で同時開催することができました。おかげさまで参加された方にはおおいに楽しんでいただけたのではないかと喜んでいました。ご協力ありがとうございました。

木戸 いや、どうもお疲れさまでした。お互いに成功して、よかったですね。こういう取り

組みを通じて食料問題への関心が高まればなによりです。

小林 ことは高病原性鳥インフルエンザの問題が起きて、生産者のみなさんはいへんな思いをなさいましたし、私たち消費者も、あらためて食べ物の生産現場に思いをはせる日々でした。この問題に一区切りつきたいま、なんとかして生産者のみなさんを励ませたらと企画したと思います。

さっそくですが、労福協の指針を拝見しましたら、「我々の進

める福祉活動は…『生活者』の経済的・社会的・文化的満足の拡大を達成することにある」と書かれていて、これは国際協同組合同盟（ICA）の「協同組合は、共同で所有し民主的に管理する事業体を通じ、共通の経済的・社会的・文化的ニーズと願いを満たすために自発的に手を結んだ人々の自治的な組織である」という定義とよく似ていると思いました。

木戸 たしかに似ていますね。労福協は、労働者福祉の要

C/O/N/T/E/N/T/S

トークとーく対談

豊かな福祉と平和はわたしたちの共通の願い

安心してくらせる社会を、連携の力で―― 2

J Aグループとともに「平成2004年度

京都府総合防災訓練」に参加 7

京都医療生協「平和のバスツアー」 8

環境にやさしい生協をめざして 9

京都府内産 米・かしわ・たまごフォーラム 10

京都・丹波「井・どん」元気が出る

テント村フェスティバル 11

「京都市消費者保護条例」改正に向けて 12

京都市消費者保護条例に盛り込むべき基本事項

中間答申の概要図 13

TOPICS 14

●第17回京都府生協役員研修会開催

●京都府生協連理事長懇談会開催

●京都府商工部との定期懇談会開催

●京都生協ジェンダーフリー懇談会開催

●第16回近畿地区生協・行政合同会議開催

●京都府生協連理事会学習会開催

●京都市ゴミ減量推進会議がマイバッグ持参呼びかけ

●第16回K Y Oのあけぼのフェスティバル

2004ワークショップ開催

●小林智子会長が京都府消費生活審議会委員に就任

おもな行事のお知らせ 16

探訪 ひと・まち交流館 京都 16



求実現を通じて勤労者・労働者とその家族の生活向上・安定と真に平和で豊かな暮らしを保障する社会をつくりだすことを基本理念にかける組織で、その地方組織である京都労福協は1957年、全国で6番目に誕生しました。京都府生協連も理事会の一員として参加していただいています。

小林 正直なところ、労福協という組織は一般的になじみが少ないと思うのですが、具体的にはどんな取り組みをなさっているんですか。

木戸 ことはとくに中小企業勤労者のための福祉サービスセンターの充実に力を入れたいと考えています。日本の企業内福祉をみると、大手企業には非常に手厚い半面、圧倒的多数をしめる中小・零細企業勤労者には貧弱なものとなっています。ことに京都は中小・零細企業が多いため、そこで働く人々への福祉をもっと拡充しなければと思います。

ほかに、来年の介護保険改定を控えて介護事業の充実や、まもなく定年退職をむかえる「団塊の世代」の人たちとの連携、

子育て支援、勤労者の環境変化への対応を支援するライフセミナー活動などを重点課題にかかげています。

小林 とても幅広い活動ですが、設立から50年近く経過すると、社会や企業や労働のあり方もくらしの姿も変わりましたでしょう？

木戸 設立当初とはとりまく環境も大きく変化し、「労働者福祉の向上に寄与する」とのスロ

安全な食べ物を安定的に供給する「地産地消」のシステムづくり

小林 ご経歴を拝見すると、私たちは同世代ですね（笑）。

木戸 ええ、例の「団塊の世代」というやつです（笑）。

小林 ということは、私たちはお互いに、あまり豊かではない食生活で育ったのではないのでしょうか（笑）。

木戸 はい、好き嫌いという余裕もなく、何でも食べました（笑）。私は、高校を卒業するころまで伏見桃山で育ちましたが、あのころはまだ近所に農家が多くて、農家の庭先の柿やザクロも無造作に食べましたし、近く

ーガンだけではすまない時代ですから。

平和で、勤労者・労働者が安心してくらせる将来のために、労働団体や生協や市民NPOと連携して、具体的な取り組みのなかで役割をはたさねばと思っています。今回のフェスティバルの同

の山でアケビをとったり、野イチゴやイタドリやグミを食べたりしました。

小林 自然児でいらしたんですね（笑）。あの時代にくらべると、いまは海外から輸入された農産物が食卓にのぼらない日はないほどで、食をめぐる問題もとても複雑になりました。そんな事態のなかで、私たちは食品衛生法の抜本

時開催の取り組みも、そんな気持ちで参画させていただきまし

的改正をもとめる運動を起こし、労福協やJAのみなさんもいっしょに取り組んでくださって、新しく食品安全基本法がつけられたのですが、その後も食をめぐるいろんな問題が起きています。

木戸 今回の鳥インフルエンザ問題では、関係者のみなさん



京都労働者福祉協議会会長
木戸 美一さん



京都府生活協同組合連合会会長理事
(京都生協理事長)
小林 智子さん



かわからないものがポンと置いてあると値段の安さと見た目だけで買ってしまうけれども、日ごろから生産者のみなさんと交流して、農業への姿勢や具体的な栽培過程を知っていれば、値段や見た目だけが基準になることはない。ですから、生協としてはとくに生産地と消費地の関係づくりに意識的に取り組んでいきたいと思っています。

木戸 そういうふうに、府内で作られた食べ物を府民が食べる「地産地消」もふくめて、生産から流通・消費にいたる信頼できる品質管理システムを確立することが、食料自給率40%以下という状態のもとで、安全な食べ物を安定的に確保する保障になるでしょうね。

小林 それに、いまは過剰なほど健康志向がつよくて、つい

栄養や効能にばかり関心がむきがちですが、おいしくいただくことが食の原点だと思いますので、みんなで「おいしいね」といいながら食べることも大事にしたいと思っています。

木戸 そう考えると、食の問題というのは、経済的・社会的・文化的側面をすべてふくんだ、幅の広い、しかも奥の深い問題ですね。

連携して「悪の連鎖」を断ち切ろう

はたいへんだったと思います。私ども労福協も「秋の自治体要求」で食の安全の充実を要求項目に掲げましたが、食の問題は、安全性の確保だけではなく、食料を安定的に供給する課題もあるんですね。この両立がなかなかむずかしい。

小林 安全な作物であつても、再生産が可能な価格設定でなければ、生産者は作りつづけることができないし、一方、私たち消費者は、あまり高すぎると買いつづけれない。このすり合わせを可能にするのは、作る側と買う側の「顔の見える関係」だと思います。誰が作った

小林 最近、生協の利用高や大学生協の食堂の利用額などが落ち込んでいます。不況のもとで食費を切りつめ、さらに医療費の自己負担もふえるなか、受診抑制が起きて、食と医療が不況の犠牲になつているようです。

木戸 日本の勤労者家計の可処分所得は6年ぐらい連続して減少していますよね。それが貯蓄の取りくずし、食費や医療費の切りつめにむかっているのは各種のデータでもあきらかです。

小林 生協の家計調査でもそれはあらわれています。景気が上向いているといわれても、く

らしの実感としてはあいかわらずきびしいですね。

木戸 とくに近畿は、完全失業率は全国平均よりも高い5%後半でとどまっています、好況感はありません。

小林 にもかかわらず、インターネットや携帯電話は生活必需品に近い状態ですので、家計支出でも通信費だけはふえています。ふやさざるをえない、というのが正直なところでしょうね。でも、一方ではインターネットをつかった詐欺で若者がねらわれ、オレオレ詐欺で高齢者がねらわれるというように、情



働きつづけながら子育てできる社会を



報機器をつかった犯罪も急増しています。

木戸 多重債務問題も急増していますし、やはり経済的な苦境・消費の停滞・モラルハザードという悪の連鎖だと思います。

食や医療など、消費者が直接責任を取りようがない問題で犠牲だけをしいられるのは不条理です。これを放置すれば、モラルも崩壊して、ますますおかしい世の中になってしまいます。不条理をただすとともに、多重債務防止については、労福協としても自治体にたいして相談窓口体制の強化など対策をとるよう要請してきましたが、多くの団体が連携して、未然防止策の取り組みなどをつよめていく必要があると思います。

小林 男女共同参画や子育て支援についてですが、私の息子たちの子育てをみてみると、私がかかり方とは意識も行動も全然違っていて、とても積極的です。社会の意識は、徐々にではあっても、確実に変わりつつあるのだなあと実感しました。

木戸 私にも孫がいますが、働きつづけながら子育てできる環境をつくらないと、もう「男

性は外で働いて、女性は家で家事・育児に専念するのが当たり前」という時代ではないでしょう。条件整備をぬきに、いくら男女共同参画や少子化対策を論議してもだめだと思います。

小林 働く女性が増えてくると、地域生協も変化を求められるんですね。京都生協もふくめた地域生協は、専業主婦を中心的な組合員として発展してきた組織ですから、男女共同参画と

いう視点から見ると、少しびつな構造をもっています。でも、働きつづける女性がふえれば平日の昼間中心の活動スタイルも変えなければなりません。留守がちな人や子育て中の人や高齢者のニーズに対応して個別配達という利用システムも導入しました。

木戸 なるほど。そういう変化への対応は事業に直結する問題でもあるし、大切でしょうね。

介護は、制度の充実+団塊の世代のパワーで

小林 私たち団塊の世代にとっては介護もさけてとおれない問題ですが、労福協としてはどのような事業を…

木戸 他県には介護保険事業を展開している労福協もありますが、京都労福協はまだその段階にいたっていません。労福協の加盟団体である全労済が以前からホームヘルパー養成講座を開いていましたので、そのサポートというかたちでかわって

います。労福協として事業を展開する場合は、労働者福祉にかかわる幅広い団体との連携を重視していきたいと思っています。



小林 京都府生協連では、医療生協が介護事業に取り組んでいますし、京都生協も介護保険がはじまる前年の99年から訪問介護事業をはじめました。有償ボランティアの「くらしの助け合いの会」の活動がもう19年目になりましたので、その信頼をベースに利用者がふえつつけています。ホームヘルパー養成講座も開いてきましたが、最近の仕事として取り組みたいという



人がふえています。

ただ、ヘルプによる収入だけで生活が成り立つ状況ではありませんが、介護保険のなかで家事援助の評価が低いという問題もあります。高齢者のなかにも少し家事援助をすれば自立生活をいとなめるようになる人が多い、というのが私たちの実感です。で、家事援助のサービス報酬を減らすという国の方針は高齢者のためにならないのではないかと思っています。

木戸 自助・共助と社会保障制度の基盤としての公助のすみわけをおこない、これらをうまく組み合わせる豊かな社会保障を実現することが大事であって、

介護保険にせよ子育て支援にせよ、財政がきびしくなってきたからサービスを削るというのは、おかしい方向です。私たちは、そういう思いをもつて運動にか

平和のために、よく学び、ともに行動しよう

小林 労福協も生協も、共通

して「平和」という目標をかかげていますが、いまは平和の危機感がつのる毎日です。全国の生協の共通テーマ「平和とよりよい生活のために」の、「よりよい生活」には食の安全や環境もふくまれますし、その前提となる「平和」は、たんに戦争のない状態だけではなく、差別やいじめがない状態でもあると思っています。そういう立場で非核をもとめる活動や平和行進などを地道につづけてきましたが、若い組合員さんのなかには「なぜ生協が平和行進なんかするの？」という声もあります。ですからさまざまな問題についてまず学ぶことを大事にしています。

木戸 平和の活動はとても重要だと思います。人が人を差別

かわり、関係諸団体と連携をとりながら、制度の充実を求めていかないといけないだろうと思います。

それと、もう一方で、知恵も

したり、殺し合ったり、たくさん人を殺した人間が英雄になるなんて愚かなことは絶対に許してはいけません。とりわけ核問題は、唯一の被爆国として「非核三原則」の堅持をはじめ、平和を追求する取り組みを絶対に風化させてはいけないと思います。

労福協運動の基本理念も「勤労者が平和にくらせる社会をつくること」にあります。

それに、運動というのは、まず「なぜ、それをするのか」と疑問をもつことからはじめないとほんとうの力になりません。だから、生協が学ぶことを大事にされているのはすばらしいと思います。自分の頭できちんと考えた力は、一つひとつは小さくても、集まれば大きな力になります。実際、それが国際的なNGOの活動につながって、国

知識も経験も豊かにかつ元気な団塊の世代の方がたのパワーをこんごの労福協活動にいかせば良いと思いますし、シニアの挑戦に期待します。

家が解決できないような問題を改善している例もたくさんあるので、お互いに連携していききたいですね。

小林 ほんとうにそう思います。一致できる活動はいっしょに取り組んでいきましょう。こんなこともよろしくお願いいたします。



(写真撮影：二〇〇四年一〇月六日 有田 知行)



当日ボランティアとして参加した京都生協組合員ファミリーより、山田啓二京都府知事に応急対策物資の飲料が手渡されました

J Aグループとともに「2004年度 京都府総合防災訓練」に参加



京都府生協連からは50名が訓練に参加、J Aグループ京都の参加者と協力して応急対策物資の飲料（茶・牛乳1000本）を配布

（右）山城地域広域振興局企画総務部
木津地域総務室の柘植一二主事が防
災訓練の目的と内容について説明



生協連 防災学習会



（左）相楽中部消防組合
消防本部警防課による
心肺蘇生講習会

9月5日（日）、京都府相楽郡木津町の（株）大阪ガス所有地において、「2004年度京都府総合防災訓練」が開催され、5000人が参加しました。

京都府生協連は京都府との「応急対策物資協定」（災害時応急対策物資調達に関する協定・1997年締結）にもとづき、J Aグループ京都と協力して「応急対策物資配布訓練」にとりくみました。

◇ ◇ ◇

訓練に先立ち、8月20日（金）には相楽地域の生協組合員を対象に防災学習会を開催しました。

京都医療生協「平和のバスツアー」

舞鶴引揚記念館・浮島丸殉難追悼の碑・五郎ヶ岳を訪ねて

京都医療生協理事 あざみ祥子

9月9日（木）、京都医療生協は「舞鶴引揚記念館・浮島丸殉難の碑・五郎ヶ岳」を訪ねる「平和のバスツアー」を実施し、秋晴れのさわやかな天候のもと、38人が参加しました。

往路では、お父様をシベリア抑留で亡くされた、「京都シベリア抑留死亡者遺族会」の会長・亀井励さんのお話を聞きました。

遺族の会10周年のビデオ上映の中では、シベリア暮参の体験を綴った亀井さんの詩『シベリア鎮魂の歌―み魂に捧ぐ』の朗読がありました。遺族のその悲痛な叫びに、涙をぬぐう参加者も多数ありました。

亀井さんはみずからの体験を元に絵本『シベリア抑留って？』を書かれており、小学校などで平和の語り部をされています。

今回のツアーでは、参加者全員にその絵本がプレゼントされました。

舞鶴引揚記念館には抑留生活の様子を復元、遺品や当時の写真などが展示されています。抑留体験者の岩本益美さんが岸壁の母と息子さんのエピソードをまじえ、解説してくださいました。



「浮島丸殉難追悼の碑」前にて
（左）京都医療生協理事 あざみ祥子さん
（右）平和友の会 榎田幸子さん

記念館横の小高い岬に登ると、引揚桟橋と引揚援護局跡が見渡せました。桟橋は意外なほど小さく、ここに帰国の一步を踏み出した引揚者は、どんな思いであつたのでしょうか。

記念館を後に、海岸線を行くと、映画「エイジアン・ブルー」で紹介された「浮島丸殉難追悼の碑」があります。「ふりそでの少女像」を制作された余江勝彦さんの作品で、チヨゴリ姿の女性と慟哭する男性の姿が見るものの胸を締めつけました。

バスツアー参加者は、舞鶴の地を訪ね、あらためて平和の大切さをかみしめました。そして次世代へ、なにより平和を伝えたいと心から願いました。最後に参加者の声を抜粋で紹介します。

○この大戦で亡くなられた方がたの魂が今日の日本の現状や将来をはたして、喜んでおられるのか、あるいは悲しんでおられるのかかわかりませんが、少なくともこの尊い犠牲をむだにすることのないように決意を新たにしました。

○「舞鶴の 引揚館に戦後見つ 物 溢れし世に 心のすさぶ」「シベリアの抑留兵の瘦身よ 今の飽食 深くいましむ」「秘められし 戦争の記憶遠ざかり 要塞の港 波 静かなり」「五郎ヶ岳 望む入江の青くして 麗しの景 永遠に鎮まれ」

環境にやさしい生協をめざして

「京大生協E-COOPのとりくみ」

京大学生協常任理事 E-COOP 高橋岳志（工学部3回生）

京大生協では、4年前に院生理事が中心となり、環境問題にとりくむ委員会「E-COOP」を立ち上げました。現在では学部生や総代、学生委員、理事、教員、生協職員を含む約20人が参加、キャンパス内でのエコロジー活動や生協の事業活動での環境負荷を軽減する活動にとりくんでおり、今回、その活動の一部を紹介します。

「環境レポート」の発行

2003年度より、事業活動にともなう環境負荷や、それへの対策と効果、リサイクル回収量などの実態をまとめた「環境レポート」を編集、発行しています。

レポートには組合員の環境への関心を高めるための学習ページもあります。メンバーが関心のあるテーマについて調べ、話し合いながら記事にしているのですが、自分たちにとってもよい学習の機会となっています。

環境関連施設や生協店舗の見学

今年度は園部町の「カンポリサイクルプラザ」や愛知県の「王子製紙春日井工場」を見学。企業活動の中で環境課題がどのように実践され、どんな問題があるのかを学びました。京大生協の店舗見学では、リサイクルショップが事業として成り立つことのむずかしさを知りました。

また、食堂見学では、排水・生ゴミ処理について食堂職員から話を聞き、自分たちの食事をめぐる環境負荷について考える機会となりました。

食堂の排水をきれいに

食堂見学から排水問題について考え、その後、ドレッシングの使い過ぎを防ぐとくくみを実施しました。容器の注ぎ口を細いものにかえることで使用量を減らし、排水中への油の流入をおさえるというのですが、調査で

は全店で10%強減らせることがわかりました。ただ、組合員からは「主旨には賛同するが手が汚れる」など率直な意見も寄せられており、改善にむけてとりくんでいる最中です。

エコジョーフェア

生協店舗でのエコ活動として、文具を中心としたグリーン購入法適合商品の表示をわかりやすくしたり、環境商品を展示販売する「Eco-Heart」コーナーを企画したりしています。商品提供だけでなく、環境にやさしくらし方のアドバイスをまとめた冊子も発行し、組合員への情報提供をつよめています。

「リサイクルステーション」の設置

「リサイクル回収箱が点在していてわかりにくい」という組合員の声にこたえ、ペットボトル・電池・インクカートリッジなど、各種の回収箱を1カ所にまとめた「統合型リサイクルステーション」を開発。

これはただまとめただけではなく、前面を透明にして中が見えるようにしたほか、箱の上部には、回収物がどのようなリサイクルされるかを記載したPOPを貼り、リサイクルへの意識を高めています。昨年10月実施の「学生

生活実態調査」では、「生協が電池の回収をしている」ことの認知度が全国の生協の中でもダントツの45%となり、とりくみの成果を確信しました。



組合員の声にこたえ「統合型リサイクルステーション」を開発・設置しました

E-COOPは発足してまだ4年目、課題は多く、組合員からの期待もたくさんありますが、これからさらに活動を充実させたいと考えています。みなさん、京大生協E-COOPをぜひ応援してください！

京都府内産 米・かしわ・たまご フォーラム



第1部シンポジウム「京都府内産 米・かしわ・たまごの今」

パネリスト：京都府農林水産部理事／食の安心・安全プロジェクト 太田善久さん、
京都府養鶏協議会会長 中澤廣司さん、京都生協商品部農産チーフ 高橋茂雄さん
コーディネーター：NPO法人コンシューマーズ京都（京都消団連）事務局長 あざみ祥子さん



農林水産省近畿農政局 山川雅典局長
からごあいさつをいただきました

10月7日（木）、平安会館で「京都府内産 米・かしわ・たまごフォーラム」を開催し、165人が参加しました。

これは、今年2月に「高病原性鳥インフルエンザ」の発生が確認され、大きな影響をうけた京都府丹波町を応援し、鶏卵・鶏肉の利用促進とあわせ、ごはん食を推進することを目的に開催されたもので、農林水産省・ごはん食推進国民活動支援事業にもとづくとくみです。

開催にあたり、農林水産省近畿農政局・京都府・ごはんを食べよう国民運動推進協議会の後援をいただきました。



第2部・試食会

「かしわ・たまごを使ったごはん料理」
（メニュー提案は料理研究家・力石さちさん）

京都・丹波「丼・どん」元氣が出る テント村フェスティバル

10月17日（日）、京都府丹波町の京都府立丹波自然運動公園で、「京都・丹波『丼・どん』元氣が出るテント村フェスティバル」を開催し、3500人が参加しました。

これは7日に開催された「京都府内産 米・かしわ・たまごフォーラム」（前ページ参照）につづき、農林水産省・ごはん食推進国民活動支援事業にもとづくとりくみ第二弾として実施したもの。

開催にあたり、農林水産省近畿農政局・京都府・ごはんを食べよう国民運動推進協議会の後援、京都府労働者福祉協議会・近畿米粉食品普及推進協議会・京都府養鶏協議会の協力をいただきました。

当日は京都府庁生活協同組合・立命館生活協同組合の役職員による丼料理の提供など5つのテント村とあわせ、森林インストラクターによるごはんクイズ&クラフト教室、養鶏生産者との交流会、京都生協西プロ

ック組合員による「たまごクイズ」などもおこなわれました。

あわせて鳥インフルエンザで影響をうけた養鶏生産者へよせられた、消費者からの義援金125,802円が、京都府生協連 小林智子会長理事より「せいきょう虹の会 農産部会たまご分会」に贈呈されました。



（左）近畿米粉食品普及推進協議会のボランティアが米粉パンのアピールをおこないました



「やきとり丼」「鳥ごはん」「チキンカレー丼」「米粉ケーキ」「米粉パン」の5つのテントを出展。3500人が参加してにぎわいました

養鶏生産者へ義援金が贈呈されました
（左）中澤廣司さん（京都食品㈱）
（右）京都府生協連 小林智子会長理事

「京都市消費者保護条例」改正に向けて

京都市消費者保護条例に盛り込むべき基本的事項 「中間答申」についての公聴会が開催されました

9月17日（金）、京都市女性総合センターウイングス京都で、京都市消費者保護審議会「京都市消費者保護条例に盛り込むべき基本的事項」中間答申についての公聴会が開催され、40人が参加しました。

これは、京都市消費者保護条例の改正にむけ、今年度審議がすすめられているものです。

中間答申では、今年5月に改正された消費者基本法の流れを受け、基本理念の中で「消費者の権利」が明確にされています。また、市・事業者・消費者の責務と役割についても、パートナーシップをつよめることが基調となるなど、消費者政策に重要な内容が盛り込まれたものとなっています。

こんご集約された意見をもとにさらに審議がすすめられ、11月末をめどに最終答申が提出される予定。

本審議会には、京都生協小林智子理事長（京都府生協連会長理事）が参加しており、全国に先がけて条例改正にむけた検討がすすめられています。



（上）公聴会で中間答申の内容を説明する、京都市消費者保護審議会の野村秀和会長

（右）公聴会で「中間答申の内容が条例に十分反映されるように」と発言する京都生協 高田艶子常任理事（京都府生協連理事）



京都市消費者保護条例に盛り込むべき基本的事項 中間答申の概要図

基本的な考え

安心・安全な消費生活環境の整備
消費者被害の救済
消費者被害の拡大防止・未然防止のための実効性の確保
消費者の自立支援

1. 基本理念

- ① 消費者の権利
 - ① 生命、身体、安全が確保され、財産を侵害されない権利
 - ② 適正な表示、適正な価格を求める権利
 - ③ 不当な取引条件を強制されず、不適正な取引を行わない権利
 - ④ 不当に受けた被害から迅速かつ適切に救済される権利
 - ⑤ 必要な情報を迅速かつ適切に知ることができる権利
 - ⑥ 必要な教育を受ける権利
 - ⑦ 市の施策及び事業者の事業活動に対して意見を十分に反映させる権利
- ② 食の安全の確保に向けた取組
- ③ 環境に配慮した取組による持続可能な循環型社会の構築
- ④ 高度情報化への対応
- ⑤ 始末の文化、食文化等、京都に伝わる独自の生活文化面からの施策の推進

2. 市、事業者、消費者の責務と役割

(1) 市の責務 (2) 事業者の責務 (3) 消費者の役割 (4) 市、事業者等、消費者等の連携と相互理解

3. 消費生活の安心・安全、安定及び向上

(1) 危害の防止 (2) 適正な表示等・適正な価格 (3) 不当取引 (4) 被害の救済 (5) 被害の拡大防止・未然防止

6. その他

- (1) 条例及び審議会の名称の変更
- (2) 条例の市民への浸透

5. 施策の総合的な推進

- (1) 基本計画の策定
- (2) 基本計画への市民意見の反映

4. 消費者の自立支援

- (1) 消費生活に役立つ情報の提供促進
- (2) 消費者教育・啓発の充実
- (3) 消費者団体による消費者教育の推進

京都府生協連 小峰耕一専務理事は、「京都市消費者保護条例に盛り込むべき基本的事項について（中間答申）」にたいする意見を提出しました。

（略）

「中間答申」は、21世紀の初頭にあたり、本市における消費者政策のあらたな発展をもたらす、たいへん重要な内容が盛り込まれており、高く評価されるものと考えます。私は、「中間答申」について、これを支持する立場から、以下、いくつか、意見を申し上げたいと思います。

（略）

【2】「第4 条例改定にかんする具体的な事項」の面では、新定・消費者基本法にもとづいたものとなっており、さらに消費者視点の強化、実効性の強化などがみられ、消費者基本法を本市において具現化するものとして、支持します。

①「1 基本理念」について

①「消費者の権利」の内容について、7つの項目を起して、明記されたことは重要であり、支持します。

（略）

③「3 消費生活上の安心・安全、安定・向上」について

①「危害の妨害」「適正な表示等、適正な価格」「不当取引」「被害の救済」「被害の拡大防止・未然防止」の項目立てについて、支持します。

（略）

④「4 消費者の自立支援」について

①「消費生活に役立つ情報の提供促進」「消費者教育・啓発の充実」「消費者団体による消費者教育の推進」の項目立てについて、支持します。

（略）

⑤「5 施策の総合的な推進」について

①施策を総合的に推進するための「基本計画」の策定は、ひじょうに重要であり、支持します。

（略）

【3】最後に、条例文については、この「中間答申」の内容が十分に盛り込まれることが必要であり、この点での関係各位のいっそうのご努力をお願いするものです。

以上

第17回京都府生協役職員研修会開催

7月21日(水)、せいきょう会館で「第17回京都府生協役職員研修会」を開催し、30人が参加しました。

開会にあたり、京都府商工部消費生活室 中村美代子室長より「ごあいさつをいただきました」。



京都府商工部消費生活室
中村美代子室長

今回は2月の監事・役職員研修会にひきつづき「コンプライアンス経営」をテーマとし、コープネット事業連合コンプライアンス室 刈谷雅夫さんに「コンプライアンス経営」組合員・消費者に信頼される組織に―生協の社会的責任―と題して報告いただきました。

つづいて京都府農林水産部 食の安心・安全プロジェクト 川崎淳司さんに「京都府 食の

安心・安全基本方針」について報告していただきました。



コープネット事業連合
コンプライアンス室
刈谷雅夫さん



京都府農林水産部
食の安心・安全プロジェクト
川崎淳司さん



京都府生協連理事長懇談会開催

7月28日(水)、パレスサイドホテルを会場に、京都府生協連理事長懇談会を開催し、11会員生協より理事長・専務理事ほか25人が参加しました。



講師に日本生協連常務理事 藤岡武義さんをむかえ、「第9次全国中期計画」重点9課題と生協の組織運営構造について」と題して講演をいただきました。



日本生協連常務理事
藤岡武義さん

つづいて参加生協より、2004年度活動課題と対応基本方針について報告があり、意見を交流しました。

京都府商工部との定期懇談会開催

8月3日(火)、京都府庁生協会議室で京都府商工部との定期懇談会が開催されました。

商工部からは、辻本泰宏部長、消費生活室 中村美代子室長、同井上茂副室長、蔭山主事、松岡主事が参加。辻本部長から開会のごあいさつをいただきました。



京都府生協連からは、小林智子会長理事(京都生協理事長)、小峰耕二専務理事(同常務理事)、小川正常任理事

(京都府庁生協常任理事(総括)、酒井克彦常任理事(大学生協京都事業連合専務理事・池坊学園生協専務理事)、京都生協社会的責任経営推進室 谷口勲役員秘書、京都府生協連 坂本事務局長、同酒向事務局担当が参加しました。

今回は、「生協の2004年度活動重点」「食の安心・安全に関わる施策について」「21世紀型消費者行政について」「2004年京都府消費者行政について」「生協経営と機関運営について」をテーマに、報告および意見交換をおこないました。

京都生協ジェンダーリー懇談会開催

8月21日(土)、せいきょう会館で京都生協ジェンダーフリー懇談会が開催され、20人が参加しました。

コープこうべの古河憲子理事を講師に迎え、関西地連ジェンダーフォーラム懇談会が作成した学習ツール「いきいき素語録」の活用について学習しました。

第16回近畿地区生協・行政合同会議開催

9月13日（月）、大津琵琶湖ホテルを会場に、「第16回近畿地区生協・行政合同会議」が開催され、行政・生協から41人が参加しました。

滋賀県生協連 中出浩専務理事の司会で開会し、近畿地区府県連協議会より兵庫県生協連 宮内明彌会長理事、滋賀県県民文化生活部・近藤月彦部長からあいさつがありました。

厚生労働省近畿厚生局健康福祉部 北条繁部長より、近畿厚生局の概況報告の後、生協への改善要望が示されました。

日本生協連渉外広報部 伊藤和久本部長より、全国の生協概況、消費者問題・食品の安全・福祉・環境のとりくみ状況、緊急時物資供給等に関する協定の締結状況、日本生協連の政府審議会等への参加状況について報告がありました。

つづいて滋賀県農政水産環境部環境こだわり農業課 児島久三主幹より「滋賀県のこだわり農業のとりくみと生協に

対する期待」、京都府商工部消費生活室 井上茂副室長より

「消費生活についての行政のとりくみを通じた生協への期待」、コープこうべ総合ネット

ワーク推進室統括部 志方京三部長が「緊急時における生活物資確保に関する協定について」それぞれ報告しました。



京都府商工部
消費生活室
井上茂副室長



京都府生協連理事会学習会開催

10月12日（火）、せいきょう会館で「京都府生協連理事会学習会」を開催し、理事・会員生協の役職員20人が参加しました。

テーマは「いま、なぜ『改憲』なのか」。京都法律事務所の高山利夫弁護士を講師に迎え、改正について論議されている9条を中心に憲法の学習をおこないました。



京都市ゴミ減量推進会議がマイバッグ持参呼びかけ

10月15日（金）、イズミヤ（株）カナート洛北店で、京都市ゴミ減量推進会議によるマイバッグ持参・簡易包装推進キャ

ンペーンがおこなわれ、京都府生協連 小峰耕二専務理事、坂本事務局長が参加しました。

京都市の職員とともに買い物物をされている方たちへ声をかけ、買い物袋によるゴミの減量をすすめるためにマイバッグを持参していただくよう、お願いしました。



第16回KYOのあけぼのフェスティバル2004 ワークショップ開催

10月16日（土）、京都府民総合交流会館 京都テルサで、京都府・KYOのあけぼのフェスティバル実行委員会主催の「KYOのあけぼのフェスティバル2004」が開催され、京都府生協連男女共同参

画委員会がワークショップを実施、30人が参加しました。



テーマは「男性が介護に直面するとき」。講師に富田秀信さんを迎え、記憶障害となった妻千代野さんを介護しながら、仕事を続けてきた経験をもとに、男性が介護するという視点で感じたジェンダー問題や、京都市の福祉制度の問題などについてお話しただきました。

小林智子会長理事が京都府消費生活審議会委員に就任

京都府から要請があり、京都府消費生活審議会委員に小林智子会長理事が就任しました。

おもな行事のお知らせ

2004年度新春交歓会

主催：京都府生活協同組合連合会

日時：2005年1月8日（土）

12：00～13：30

会場：平安会館

（京都市上京区烏丸通上長者町上ル）

2004年度ライフプランセミナー

主催：京都府生活協同組合連合会

京都生活協同組合共済会

日時：2005年1月22日（土）

10：00～16：30

会場：平安会館

（京都市上京区烏丸通上長者町上ル）

京都府生活協同組合連合会と各会員生協の相互連絡防災通信訓練

日程：2005年1月17日（月）

7：00～11：00

内容：京都府生協連災害対策本部設置と立ち上げ・相互連絡防災通信訓練

探訪

4つのセンターからなる複合施設 ひと・まち交流館 京都

「ひと・まち交流館 京都」は、「市民活動総合センター」「福祉ボランティアセンター」「長寿すこやかセンター」「景観・まちづくりセンター」の4つのセンターからなる複合施設です。

パートナーシップによる市民参加型社会の推進と豊かで活力ある長寿社会の実現を目指す「ひと・まち交流館 京都」は、京都市内における様々な分野のボランティア活動やNPO活動など営利を目的とせず、他者や社会に対して貢献する市民の自発的な活動を推進・支援する拠点として設置されました。

京都を中心に様々な分野において公益的活動を展開されている団体・個人が、その活動のために開かれる研修会や会議等に利用される施設として第1会議室～第5会議室及び和室を無料で貸し出します。

また、大会議室（有料）については、公益的活動を展開されている団体等の方々が、その活動のために開かれる研修会や会議等の利用が優先されますが、その他一般の利用にも貸し出します。（但し、一部利用制限があります。）

公益的活動を展開されている団体・個人の方々は、利用申請時に関係するセンターへの登録をお願いします。



ひと・まち交流館 京都

- 開館時間／9:00～21:30（日・祝日は、9:00～17:00、1階の共用コーナー及び会議室等は、9:00～21:30）
- 休館日／毎月第3火曜日（国民の祝日のときは、翌日）及び年末年始（12/29～1/4）

〒600-8127 京都市下京区西木屋町通上ノ口上る梅津町83-1（河原町通五条下る東側）
TEL.075-354-8711 FAX.075-354-8712
会議室予約専用電話TEL.075-354-8719
携帯電話用ホームページのご案内
<http://www.hitomachi-kyoto.jp/mobile/>